

地域通貨 安曇野ハートマネーに参加しませんか

「地域通貨」とは、一定の地域で、実際のお金を使わずに、物やサービスを交換する方法。利子につかず、消費することに意義を持つこの特殊なお金のコミュニティは、世界のあちこちに存在して地域を活性化させています。

活動範囲	長野県南安野市 安曇野一帯
運営主体	安曇野ハートマネー事務局
計測基準	1P(PEACE)=1円相当 1時間の働き 500~1000PEACE
発行主体	安曇野ハートマネー事務局
発行・循環方式	事務局で会員登録を行い1口につき 11000PEACE を入手できる。
表現の方法	紙幣形通貨(財担保証券)
会費	1口につき交換手数料 100 円と 10000 円の財で 11000Peace 受領できる。また 10000Peace は 9000 円と交換できる。集まった資金はピースユニオン(銀行)にて諸経費のみで会員 NPO プロジェクトをサポート(融資)する。
活動開始時期及び主な出来事	1999 年 12 月ハートマネー安曇野リング開始 通帳式 2001 年3月システムを修正 名前を安曇野ハートマネーと 単価をピース 財担保証券式とする。2002 年5月ピースユニオン(銀行)設立
会員数	100 人
ホームページ	http://www.ultraman.gr.jp/~love/
事務局所在地 連絡先	〒399-83 長野県南安曇郡穂高町豊里 舎廬夢(シャロム)ヒュッテ 安曇野ハートマネー事務局 臼井健二 TEL & FAX 0263-83-3838 E-mail: shalom@ultraman.gr.jp
運営委員	臼井健二 浦野典子 福島修道 狩野ナギラ 上野玄春

●基本原則

地域社会に対する貢献と地域内の消費活動の促進 コミュニティーの再生これが安曇野ハートマネーで可能になります。

まず会員登録をしていただきます。会員になるには一口につき交換手数料100円を支払い財1万円(物品お米日本円サービス労働でもかまいません)を ピースユニオン(銀行)に預けます。引き換えに安曇野ハートマネー11000PEACE を入手できます。会員はサービスや商店での買い物にこの PEACE が使用できます。 サービスや物の購入と地域社会に対する貢献を同時に可能にします。また地域通貨を発行したことになります。NPO や環境団体企業は応援してくれる会員を増やす事により地域通貨が発行され活動資金が増えます。日本円を預ける際に応援するプロジェクトを指定できます。個人は地域通貨によってサービスや商品が手に入ります。企業は意識の高い新たな顧客を獲得でき NPO 企業 個人にとってもメリットがあります。

安曇野ハートマネーは善意と信頼を結ぶものです。市場競争の社会から、共生と助け合いの社会へのパスポートです。また会員は諸経費のみでピースユニオン(銀行)から日本円と地域通貨の借り入れができます。

●設立経緯

競争と分断を強いる資本主義により貧富の差が生まれ自給自足の経済が破壊されていきました。物は豊になったけれどコミュニティは崩壊しお金が全ての世の中になりました。そんなときにNHKの「エンデの遺言」は根本からお金を問う番組でした。この番組に触発され地域通貨に取り組み始めました。

最初は理念先行で生活感レベルでの使用までには至りませんでした。

2001 年新たなコミュニティを作りここで100%使える財を担保とする地域通貨を始めました。

2002 年ピースユニオン(銀行)を設立 NPO や仲間を支援する銀行業務を開始しました。

●取引の流れ

登録用紙に住所、氏名及びに提供できる・提供してもらいたいサービスや物を登録します。この登録用紙は事務局に保管し公開されます。必要な方は閲覧またはコピーを各自でします。1口につき交換手数料100円と 10000 円を支払い登録すると地域通貨(財担保証券) P11000PEACE を受領できます。

この紙幣型 証券 PEACE 券で取引を行います。1PEACE は1円相当としています。また 10000Peace は 9000 円と発行したところで換金します。

●取引されている物

メンバーの持つ様々な趣味や経験、特技を生かしてサービスや物のやりとりが行われています。

サービスリストには以下のようなものが掲載されています。

パソコン教えます。話し相手 安曇野案内 送迎 ワープロ入力 犬の散歩 草むしり 農作物
また宿泊や商店で100%使えます。

●今後の展望

このシステムは商店街でも受け入れやすいシステムです。活用の仕方できなかつたいろいろな取り組みが生まれます。資金は内部にとどまり商店街での循環がより以上の経済効果を生み出します。NPO 企業などでも集まった資金を活動費として使え社会貢献ができます。受け入れてくれる企業や会員の確保 広報PRなどがこれからの課題です。